

四半期報告書

(第47期第3四半期)

自 平成22年1月1日

至 平成22年3月31日

穴吹興産株式会社

香川県高松市鍛冶屋町7番地12

(E04025)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 販売及び契約の状況	3
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	5

第3 設備の状況

10

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	11
(2) 新株予約権等の状況	11
(3) ライツプランの内容	11
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	11
(5) 大株主の状況	11
(6) 議決権の状況	12

2 株価の推移

12

3 役員の状況

12

第5 経理の状況

13

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	14
(2) 四半期連結損益計算書	16
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	18

2 その他

24

第二部 提出会社の保証会社等の情報

25

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	四国財務局長
【提出日】	平成22年5月14日
【四半期会計期間】	第47期第3四半期（自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日）
【会社名】	穴吹興産株式会社
【英訳名】	ANABUKI KOSAN INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 穴吹 忠嗣
【本店の所在の場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12
【電話番号】	087（822）3567（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【最寄りの連絡場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12
【電話番号】	087（822）3567（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第3四半期連結 累計期間	第47期 第3四半期連結 累計期間	第46期 第3四半期連結 会計期間	第47期 第3四半期連結 会計期間	第46期
会計期間	自平成20年 7月1日 至平成21年 3月31日	自平成21年 7月1日 至平成22年 3月31日	自平成21年 1月1日 至平成21年 3月31日	自平成22年 1月1日 至平成22年 3月31日	自平成20年 7月1日 至平成21年 6月30日
売上高（千円）	29,377,629	35,790,276	9,692,507	16,878,795	66,929,090
経常利益又は経常損失（△） （千円）	△1,516,311	△1,287,168	△621,743	227,083	1,313,610
四半期（当期）純利益又は四半期 純損失（△）（千円）	△768,735	△755,388	△278,270	124,970	897,809
純資産額（千円）	—	—	5,478,688	6,137,285	7,090,195
総資産額（千円）	—	—	58,123,513	52,906,808	56,881,543
1株当たり純資産額（円）	—	—	189.69	219.12	251.15
1株当たり四半期（当期）純利益 金額又は四半期純損失金額（△） （円）	△27.93	△28.10	△10.27	4.69	32.74
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（％）	—	—	8.8	11.0	12.0
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	△7,239,634	△7,678,701	—	—	11,755,461
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	693,837	△287,886	—	—	573,439
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	7,317,074	4,270,586	—	—	△5,130,899
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	—	—	7,417,781	10,148,504	13,844,506
従業員数（人） （外、平均臨時雇用者数）	—	—	625 (449)	631 (436)	654 (479)

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第46期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第46期第3四半期連結累計（会計）期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第47期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第47期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数（人）	631	（436）
---------	-----	-------

（注）従業員数は就業人員であり、契約社員及びパート社員数は、当第3四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数（人）	216	（49）
---------	-----	------

（注）従業員数は就業人員であり、契約社員及びパート社員数は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【販売及び契約の状況】

当第3四半期連結会計期間の販売（売上）実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)	前年同期比 (%)
不動産関連事業 (千円)	13,879,358	211.1
人材サービス関連事業 (千円)	1,472,398	83.9
施設運営事業 (千円)	1,109,291	115.4
その他事業 (千円)	417,746	104.2
合計 (千円)	16,878,795	174.1

(注) 1. 本表の金額には、消費税は含まれておりません。

2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

《不動産関連事業》

マンションの分譲事業における地域別契約戸数は、次のとおりであります。

地域	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)	
	契約戸数 (戸)	割合 (%)	契約戸数 (戸)	割合 (%)
四国	129	25.8	256	41.9
中国	135	27.1	157	25.7
近畿	47	9.4	31	5.1
九州	188	37.7	158	25.8
関東	—	—	9	1.5
合計	499	100.0	611	100.0

《人材サービス関連事業》

人材サービス事業の地域別売上高は、次のとおりであります。

地域	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)	
	売上高 (千円)	割合 (%)	売上高 (千円)	割合 (%)
四国	867,036	49.4	742,069	50.4
中国	346,184	19.7	268,021	18.2
近畿	129,484	7.4	123,020	8.4
中部	105,589	6.0	86,752	5.9
関東	306,840	17.5	252,535	17.1
合計	1,755,135	100.0	1,472,398	100.0

《施設運営事業》

施設運営事業の種類別売上高は、次のとおりであります。

事業の種類	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)	
	売上高 (千円)	割合 (%)	売上高 (千円)	割合 (%)
ホテル事業	457,091	47.5	517,376	46.6
施設運営受託事業	449,208	46.7	535,955	48.3
ゴルフ事業	55,194	5.8	55,959	5.1
合計	961,493	100.0	1,109,291	100.0

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、輸出産業などを中心に一部で業績回復の兆しがみられるものの、円高やデフレなど不透明な経済環境が深刻化してきており、企業の設備投資は抑制され、失業率は高水準で推移するなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、進出エリアの不動産市場において勝ち組となるべく、引き続き主力である分譲マンション事業を中心に既存事業に経営資源を集中して、収益確保及び販売強化に努めるとともに、競合他社との事業の差別化を推進してまいりました。平成22年3月には、かねてより検討を進めておりました高齢者向け住宅第1号物件となる「アルファリビング百間町（香川県高松市）」の入居受付を開始いたしました。また、連結子会社あなぶきホームプランニング(株)が行う資産運用事業では、土地活用をご検討されているお客様に向けての新商品「アルファフィオーレ」を開発いたしました。この「アルファフィオーレ」は、最適な仕様を付加することができるオーダーメイド型の賃貸マンションであり、入居率の高い賃貸経営の提案を目指した新商品です。

当第3四半期連結会計期間（3ヶ月間）における売上高は16,878百万円（前年同期比74.1%増）、営業利益428百万円（前年同期は営業損失402百万円）、経常利益227百万円（前年同期は経常損失621百万円）、四半期純利益124百万円（前年同期は四半期純損失278百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

① 不動産関連事業

不動産関連事業におきましては、相次ぐ競合他社の経営破綻など不透明な事業環境が続いておりましたが、都心部を中心に在庫調整が進み、事業環境の悪化には底打ちの兆しが見られるようになりました。当第3四半期連結会計期間における新築分譲マンションにつきましては、契約戸数につき611戸（前年同期499戸）、売上戸数につき565戸（前年同期256戸）となりました。

この結果、不動産関連事業の売上高は13,879百万円（前年同期比111.1%増）、営業利益は340百万円（前年同期は営業損失386百万円）となりました。

② 人材サービス関連事業

人材サービス関連事業におきましては、厳しい事業環境のもと、全社一丸となって地域密着型の粘り強い営業活動を展開し、主力である事務職人材派遣を中心に安定収益の確保に注力いたしました。

この結果、人材サービス関連事業の売上高は1,472百万円（同16.1%減）、営業利益は5百万円（前年同期は営業損失14百万円）となりました。

③ 施設運営事業

施設運営事業におきましては、管理運営を受託している「津田の松原サービスエリア」において、高速道路のETC割引効果による休日の来場数の大幅増加等により、好調に推移いたしました。

この結果、施設運営事業の売上高は1,109百万円（同15.4%増）、営業利益は41百万円（前年同期は営業損失56百万円）となりました。

④ その他事業

その他事業におきましては、売上高は417百万円（同4.2%増）、営業利益は40百万円（同23.6%減）となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日までの3ヶ月間）における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、10,148百万円となっております。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において、営業活動の結果獲得した資金は、4,346百万円（前年同期は1,421百万円の使用）となりました。これは主にマンション事業に係る仕入債務の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において、投資活動の結果使用した資金は、151百万円（前年同期は36百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間において、財務活動の結果使用した資金は、1,576百万円（前年同期は126百万円の使用）となりました。これは主にマンション事業のプロジェクトに係る金融機関からの借入金の返済によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 3 四半期連結会計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第 3 号に掲げる事項）は次のとおりであります。

① 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者としては、当社の企業価値の源泉及び当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、中長期的な当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益の確保、向上に資する者が望ましいと考えております。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主の皆様のご意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社株券等に対する大量買付行為があった場合においても、これが当社の企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、株券等の大量買付行為の中には、その目的等から見て当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に当社株券等の売却を事実上強要するおそれのあるもの、当社や当社株主に対して当該行為に係る提案内容や代替案等を検討するための十分な時間や情報を与えないものなども少なくありません。

したがって、当社といたしましては、当社の企業価値の源泉を十分に理解せず、企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益に資さない大量買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えており、万一、このような者が現れた場合には、当社として必要かつ相当な対抗措置をとることが、当社の中長期的な企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益を実現するために必要であると考えております。

② 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社では、当社の企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益の実現によって、株主、投資家の皆様にも長期的に継続して当社に投資していただくため、今般決定しました上記①の基本方針の実現に資する特別な取組みとして、以下の施策を実施しております。

この取組みは、下記イの当社グループの企業価値の源泉を十分に理解したうえで策定されており、当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を中長期的に向上させるべく十分に検討されたものであります。したがって、上記①の基本方針に沿うものであり、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社役員の地位の維持を目的とするものでもありません。

イ 当社グループの企業価値の源泉

a. 不動産関連事業を核とする地域に密着した事業展開

当社は、昭和39年に社員 3 人の資産管理会社からスタートし、「住まい創りや不動産価値創造事業を通じて、地域社会の文化と歴史の創造に貢献する」を経営理念に掲げ、「アルファ」ブランドのマンションを中四国・近畿・九州で分譲を行うほか、戸建請負、不動産仲介などの不動産関連事業、またグループ企業としてホテル・ゴルフ場などの施設運営事業、人材派遣・有料職業紹介事業などの人材サービス関連事業、その他事業としてトラベル事業、広告代理事業など、不動産事業を中心として地域に密着した事業展開を行ってまいりました。現在では、連結子会社12社、総従業員数約1,100名（臨時雇用社員を含みます。）を要するグループにまで成長を遂げております。

現在、当社グループは、経営理念を実現すべく、核となる不動産関連事業において主力の分譲マンション事業によるディベロップメント機能を拡大・充実させるとともに、不動産仲介等によるフィービジネスを有機的に連携させることによる相乗効果を高めていくことに加えて、M&Aや再生ビジネス案件にとりまなうホテル等の運営をグループ会社で受託するなど、地域社会になくはならないオンリーワン企業を目指し、付加価値の高い商品・サービスを提供しております。

このように、事業活動を通じて地域社会に貢献していくことを使命としている当社グループにとって、常に地域社会と連携をとり、地域社会の環境・風土に結びついた商品・サービスを構築し、業務を推進していくためには、地域社会と密接に繋がった従業員の力は必要不可欠です。そのため当社グループでは、お客様に満足していただくためには、従業員が経営理念やビジョン、価値観を共有し、当社グループの従業員であることを誇りとして業務に邁進できる環境を整えることも重要かつ不可分であるとの考えから、企業価値の向上にあたっての基本路線の一つとして「CS（顧客満足）・ES（従業員満足）推進企業」を定めております。したがって、当社グループでは優秀な人材を社内に確保、育成するとともに、従業員との良好かつ緊密な関係を維持していくことが重要であると考えております。

b. お客様との長期的かつ良好な信頼関係

当社グループは、主力の分譲マンション事業において、マンション用地の選定、商品企画、施工管理、販売、入居後のアフターメンテナンス、さらには仲介といった住替えのお手伝いまで全てを自社グループ一貫体制で行うことにより、当社のマンションに住むお客様に安心・安全・快適をお届けしてまいりました。また、定期的実施するお客様不満足度調査やモニターヒアリング等を通じてお客様の生の声を収集し、商品企画に反映させ、多彩なライフスタイルに対応する4つの「アルファ」ブランドを展開しております。これらのように、お客様視点に立って事業を展開することで様々なお客様との信頼関係を構築し、「アルファファン」を作ってきたことが当社グループ各社の事業活動を支えております。今後もお客様との信頼関係を維持し、お客様の満足度を高め、多くの「アルファファン」を作り、その「アルファファン」に育てていただくことが当社グループの持続的な発展に繋がるものと考えております。

c. 事業活動を支える「あなぶき」ブランド

当社は事業エリアである中四国、近畿、九州において「不動産のもつ無限の可能性に挑戦し、常に新しい価値を創造することで、そこに暮らし、訪れる人々、そして街の未来を豊かにしていく」ことをブランドの約束として「あなぶき」ブランドを浸透させ構築してまいりました。「あなぶき」ブランドは当社グループが提供する商品やサービスのブランド価値に直結し、事業を展開していくうえで大きなアドバンテージとなっております。今後も「あなぶき」のブランド価値を向上させていくことが、当社の企業価値の向上にとって重要であると考えております。

ロ 中期経営計画及び今後の展開

当社の主力事業である分譲マンション事業は、中長期的には景気後退と物価上昇が同時に進行するスタグフレーション傾向、少子高齢化等による需要減退、また他社ディベロッパーとの競合激化が予想されます。このような環境のなかで、当社は、当社の強みである市場を重視した新商品開発力を強化し、魅力ある新商品を提供し続けることで他社を寄せ付けられない地位を築きたいと考えております。

そのために、当社は、平成21年6月期から平成23年6月期の中期計経営計画において、「飽くなき新商品開発によりマンション市場において勝ち組となるとともに、当社の総合開発力を活かした不動産価値創造事業を強化する。」という中期ビジョンに基づき、以下の3つの経営方針を定めております。

a. “さすが！「あなぶき」”と言われる新商品を提供する

継続してCSマネジメントを推進することにより、市場が潜在的に求めているニーズを具現化した新商品を提供し、互い（お客様と当社）に満足を生む“あなぶき”ブランドの確立を目指します。

※CSマネジメントとは、お客様から見た当社及び当社商品・サービスの価値（バリュー）を最大化するとともにお客様満足に関係しない他のコスト（販売経費など）の低下を両立するバランスのとれた経営です。

b. 不動産価値を創造する総合開発力を強化する

個別の不動産が持つあらゆる可能性を考慮のうえ、最適用途の判断、投資を行い、不動産価値を創造していくための不動産の総合的な開発力を強化します。

具体的には、取得したマンション用地情報について、分譲マンション事業としての是非で判断するのみならず、賃貸住宅や店舗用不動産として投資や用途変更を行うことにより、最有効利用できているかどうかという観点で用地取得の是非を判断していきます。

c. バランスシートを意識した経営を推進する

企業の競争力を高めるためには、投下資本に対する効率の良い利益獲得を推進する必要があります。このためには総資産を適度に圧縮するとともに回転率を高めること及び利益率を向上させることが必要です。従来のP/L（損益計算書）重視だけでなく、B/S（貸借対照表）をも重視したバランスの良い経営を目指します。「利益率の向上（生産性・効率性の向上・新商品開発・コストコントロール等）」とともに「総資産の回転率向上（販売用不動産、事業化に長期を要する物件等の早期キャッシュ回収、事業期間の短縮、低稼働不動産の売却等）」の両面を意識した経営をさらに推進していきます。

ハ コーポレートガバナンスの整備

当社は、当社の経営理念に立脚したうえで、企業価値の継続的な向上に努めることが最も重要な責務と考えております。その責務を果たすためには、コーポレートガバナンスの充実・強化が不可欠であると考えており、当社に最も適した仕組みづくりを絶えず追求しております。これまでの具体的な施策については次のとおりです。

a. 執行役員制度の導入

従来取締役が担ってきた経営機能と業務執行機能を分離し、意思決定の迅速化と経営責任の明確化を目的として、平成15年9月より執行役員制度を導入しております。また、取締役に執行役員を含めた当社経営会議を週1回開催し、迅速かつ機動的な業務執行にも努めております。

b. 社外監査役の過半化

経営の透明性をより高めるため、監査役員数に占める社外監査役の比率を過半数としており、現在、監査役4名のうち3名を社外監査役で構成しております。監査役は、取締役会その他重要会議等へ出席し適宜意見を述べたり、重要な決裁書類等を閲覧したりすることなどを通じ、経営の監視・監督機能を果たしております。

c. 取締役任期の短縮

株主の皆様経営陣の責任をより一層明確にしていくことを目的とし、平成18年9月に、取締役の任期を従来の2年から1年に短縮しております。

d. その他

情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の認証のための国際規格である「ISO/IEC27001：2005／JIS Q27001：2006」を平成18年12月に認証取得し、その規格に基づき、個人情報をはじめとする各種情報の安全な管理環境の確保及び情報セキュリティレベルの向上に努めております。また、金融商品取引法が求める内部統制システムの構築に積極的に取り組むなど、全社を挙げて内部管理体制を強化しております。

③ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社としては、当社株券等に対する大量買付行為が行われた場合、当該大量買付行為が当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益に資するものであるか否か、株主の皆様適切に判断していただき、提案に応じるか否かを決定していただくためには、大量買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供され、検討のための十分な期間が確保されることが不可欠であると考えます。また、当社は、当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益の確保または向上の観点から大量買付行為の条件・方法を変更・改善させる必要があると判断する場合には、大量買付行為の条件・方法について、大量買付者と交渉するとともに、代替案の提案等を行う必要もあると考えておりますので、そのために必要な時間も十分に確保されるべきであります。

当社は、このような考え方に立ち、平成20年8月14日開催の取締役会において、当社株券等の大量買付行為への対応策（買収防衛策）の具体的内容（以下「本プラン」という。）を決定し、平成20年9月25日開催の当社第45期定時株主総会にて、株主の皆様より承認、可決され、本プランを導入いたしました。

本プランは、大量買付者に対し、本プランの遵守を求めるとともに、大量買付者が本プランを遵守しない場合ならびに大量買付行為が当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を害すると判断される場合の対抗措置を定めており、その概要は以下のとおりであります（なお、本プランの詳細につきましては当社のホームページ（<http://www.anabuki.ne.jp/>）で公表している平成20年8月14日付プレスリリース「会社の支配に関する基本方針及び当社株券等の大量買付行為への対応策（買収防衛策）に関するお知らせ」をご参照ください。）。

イ 本プランに係る手続の設定

本プランは、大量買付行為が行われる場合に、大量買付者に対し、事前に当該大量買付行為の内容の検討に必要な情報の提供を求め、当該大量買付行為についての情報の収集及び検討のための一定の期間を確保したうえで、必要に応じて、大量買付者との間で大量買付行為に関する条件・方法について交渉し、さらに、当社取締役会として、株主の皆様へ代替案を提示するなどの対応を行っていくための手続を定めています。

ロ 新株予約権無償割当て等の対抗措置

本プランは、大量買付者に対して当該所定の手続に従うことを要請するとともに、かかる手続に従わない大量買付行為がなされる場合や、かかる手続に従った場合であっても当該大量買付行為が当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を害するものであると判断される場合には、かかる大量買付行為に対する対抗措置として、原則として新株予約権を株主の皆様へ無償で割り当てるものです。また、会社法その他の法律及び当社の定款上認められるその他の対抗措置を発動することが適切と判断された場合には当該その他の対抗措置が用いられることもあります。

本プランに従って割り当てられる新株予約権（以下「本新株予約権」という。）には、大量買付者及びその関係者による行使を禁止する行使条件や、当社が本新株予約権の取得と引換えに大量買付者及びその関係者以外の株主の皆様へ当社株式を交付する取得条項等を付すことが予定されております。

本新株予約権の無償割当てが実施された場合、かかる行使条件や取得条項により、当該大量買付者及びその関係者の有する議決権の当社の総議決権に占める割合は、大幅に希釈化される可能性があります。

ハ 独立委員会の設置

本プランに定めるルールに従って一連の手続が進行されたか否か、ならびに、本プランに定めるルールが遵守された場合に当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を確保し、または向上させるために必要かつ相当と考えられる一定の対抗措置を講じるか否かについては、当社取締役会が最終的な判断を行います。その判断の合理性及び公正性を担保するために、当社は、当社取締役会から独立した組織として、独立委員会を設置することとします。当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会による勧告を最大限尊重するものとします。独立委員会の委員は、3名以上5名以下とし、社外取締役、社外監査役、弁護士、公認会計士、税理士、学識経験者、投資銀行業務に精通している者及び他社の取締役または執行役として経験のある社外者等の中から選任されるものとします。

ニ 情報開示

当社は、本プランに従い、大量買付行為があった事実、大量買付者から十分な情報が提供された事実、独立委員会の判断の概要、対抗措置の実施または不実施の決定の概要、対抗措置の実施に関する事項その他の事項について、株主の皆様に対し、適時かつ適切に開示します。

④ 本プランの合理性（本プランが基本方針に沿い、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと及びその理由）

本プランは、以下の理由により、上記①の基本方針に沿うものであり、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また当社役員の地位の維持を目的とするものでもないと考えております。

イ 買収防衛策に関する指針の要件等を完全に充足していること

ロ 企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益の確保または向上を目的として導入されていること

ハ 株主意思を重視するものであること

ニ 独立性の高い社外者の判断の重視

ホ 合理的な客観的要件の設定

ヘ 独立した地位にある第三者の助言の取得

ト デッドハンド型買収防衛策ではないこと

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	115,000,000
計	115,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年5月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,839,000	28,839,000	大阪証券取引所 (市場第一部)	(注) 単元株式数1,000株
計	28,839,000	28,839,000	—	—

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成22年1月1日～ 平成22年3月31日	—	28,839,000	—	755,794	—	747,590

(5)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成21年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成21年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 2,168,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 26,664,000	26,664	同上
単元未満株式	普通株式 7,000	—	同上
発行済株式総数	28,839,000	—	—
総株主の議決権	—	26,664	—

② 【自己株式等】

平成21年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
穴吹興産(株)	香川県高松市鍛冶屋町7-12	2,168,000	—	2,168,000	7.51
計	—	2,168,000	—	2,168,000	7.51

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成22年1月	2月	3月
最高（円）	208	209	205	201	196	165	165	151	165
最低（円）	168	171	183	183	125	134	145	147	147

（注）最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,202,044	13,853,806
受取手形及び売掛金	892,735	1,030,389
販売用不動産	13,758,849	14,819,805
仕掛販売用不動産	19,001,071	17,821,231
その他のたな卸資産	89,295	84,060
繰延税金資産	1,166,486	333,422
その他	716,659	1,768,070
貸倒引当金	△15,658	△12,499
流動資産合計	45,811,483	49,698,287
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,114,271	2,241,190
機械装置及び運搬具（純額）	33,841	40,730
土地	3,296,593	3,317,722
建設仮勘定	54,094	53,742
その他（純額）	425,733	457,845
有形固定資産合計	* 5,924,534	* 6,111,230
無形固定資産		
のれん	84,256	103,026
その他	98,491	117,769
無形固定資産合計	182,748	220,795
投資その他の資産		
投資有価証券	157,288	162,071
繰延税金資産	166,035	154,122
その他	689,052	554,286
貸倒引当金	△24,333	△19,251
投資その他の資産合計	988,042	851,229
固定資産合計	7,095,325	7,183,256
資産合計	52,906,808	56,881,543

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,872,970	14,852,758
短期借入金	12,204,850	10,022,000
1年内返済予定の長期借入金	12,833,963	6,891,284
未払法人税等	186,089	185,165
賞与引当金	170,425	311,486
前受金	2,503,953	1,333,252
その他	1,458,200	2,029,650
流動負債合計	36,230,453	35,625,597
固定負債		
社債	120,000	—
長期借入金	9,688,392	13,464,883
退職給付引当金	497,839	456,453
役員退職慰労引当金	73,044	73,044
その他	159,793	171,370
固定負債合計	10,539,069	14,165,751
負債合計	46,769,522	49,791,348
純資産の部		
株主資本		
資本金	755,794	755,794
資本剰余金	821,283	821,283
利益剰余金	4,719,491	5,609,521
自己株式	△443,935	△375,199
株主資本合計	5,852,634	6,811,399
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△8,745	△5,303
評価・換算差額等合計	△8,745	△5,303
少数株主持分	293,397	284,098
純資産合計	6,137,285	7,090,195
負債純資産合計	52,906,808	56,881,543

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)
売上高	29,377,629	35,790,276
売上原価	22,871,297	29,516,661
売上総利益	6,506,332	6,273,615
販売費及び一般管理費	※ 7,406,403	※ 7,028,311
営業損失(△)	△900,070	△754,696
営業外収益		
受取利息	14,239	6,851
受取配当金	3,261	4,010
負ののれん償却額	167	—
還付加算金	—	22,591
その他	26,745	27,573
営業外収益合計	44,413	61,026
営業外費用		
支払利息	633,491	560,020
その他	27,162	33,479
営業外費用合計	660,653	593,499
経常損失(△)	△1,516,311	△1,287,168
特別利益		
固定資産売却益	28,657	3,647
貸倒引当金戻入額	380	1,984
債務保証損失引当金戻入額	10,358	3,266
償却債権取立益	7,949	12,350
その他	1,162	—
特別利益合計	48,507	21,248
特別損失		
固定資産売却損	31,972	—
固定資産除却損	43,557	26,745
投資有価証券評価損	1,338	1,344
その他	13,290	3,859
特別損失合計	90,158	31,949
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,557,961	△1,297,869
法人税、住民税及び事業税	58,981	291,464
法人税等調整額	△836,817	△843,245
法人税等合計	△777,836	△551,780
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△11,389	9,298
四半期純損失(△)	△768,735	△755,388

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
売上高	9,692,507	16,878,795
売上原価	7,560,073	14,138,078
売上総利益	2,132,433	2,740,717
販売費及び一般管理費	* 2,535,302	* 2,312,265
営業利益又は営業損失(△)	△402,869	428,452
営業外収益		
受取利息	5,696	2,392
受取配当金	0	1,741
負ののれん償却額	949	—
その他	6,410	3,479
営業外収益合計	13,056	7,613
営業外費用		
支払利息	228,256	187,345
その他	3,674	21,637
営業外費用合計	231,930	208,982
経常利益又は経常損失(△)	△621,743	227,083
特別利益		
貸倒引当金戻入額	82	294
債務保証損失引当金戻入額	3,158	932
償却債権取立益	5,450	4,567
その他	29	—
特別利益合計	8,721	5,794
特別損失		
固定資産除却損	14,019	25,657
投資有価証券評価損	—	104
その他	11,231	3,859
特別損失合計	25,251	29,621
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△638,274	203,256
法人税、住民税及び事業税	23,535	108,731
法人税等調整額	△376,607	△29,371
法人税等合計	△353,072	79,359
少数株主損失(△)	△6,931	△1,073
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△278,270	124,970

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△1,557,961	△1,297,869
減価償却費	320,746	272,074
のれん償却額	△167	769
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	175	8,241
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△163,288	△141,060
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	27,429	41,386
受取利息及び受取配当金	△17,500	△10,862
支払利息	633,491	560,020
固定資産売却損益 (△は益)	3,314	△3,647
固定資産除却損	43,557	26,745
売上債権の増減額 (△は増加)	177,939	137,654
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,576,996	△124,118
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,819,388	△7,979,788
その他	172,835	1,661,883
小計	△5,755,813	△6,848,570
利息及び配当金の受取額	17,511	10,840
利息の支払額	△635,455	△551,477
法人税等の支払額	△865,876	△289,494
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,239,634	△7,678,701
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	—	△44,240
有形固定資産の取得による支出	△109,341	△81,785
有形固定資産の売却による収入	600,809	24,779
無形固定資産の取得による支出	△34,504	△7,532
投資有価証券の取得による支出	△2,499	△2,841
投資有価証券の分配による収入	—	1,106
貸付けによる支出	—	△2,818
貸付金の回収による収入	3,100	4,314
事業譲受による支出	△120,000	—
事業譲受による収入	340,940	—
その他	15,332	△178,870
投資活動によるキャッシュ・フロー	693,837	△287,886
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,711,900	2,182,850
長期借入れによる収入	9,154,180	8,593,000
長期借入金の返済による支出	△4,127,200	△6,426,812
社債の発行による収入	—	120,000
自己株式の取得による支出	△147,703	△68,735
配当金の支払額	△274,102	△129,715
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,317,074	4,270,586
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	771,277	△3,696,001
現金及び現金同等物の期首残高	6,646,504	13,844,506
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 7,417,781	※ 10,148,504

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)
連結の範囲に関する事項の変更	(会計方針の変更) 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第22号 平成20年5月13日)を適用しております。 これによる当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表への影響はありません。

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末 (平成21年6月30日)
※ 有形固定資産の減価償却累計額は、3,399,023千円 であります。	※ 有形固定資産の減価償却累計額は、3,213,838千円 であります。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。	※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。
社員給料 2,198,848千円	社員給料 2,204,602千円
販売促進費 1,225,608	販売促進費 1,228,224
賞与引当金繰入額 204,698	賞与引当金繰入額 145,879
退職給付費用 67,546	退職給付費用 81,354

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。	※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次 のとおりであります。
社員給料 775,527千円	社員給料 746,550千円
販売促進費 497,812	販売促進費 389,488
退職給付費用 28,975	退職給付費用 38,209

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結対照 表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結対照 表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)
現金及び預金勘定 7,426,181千円	現金及び預金勘定 10,202,044千円
小計 7,426,181	小計 10,202,044
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △8,400	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △53,540
現金及び現金同等物 7,417,781	現金及び現金同等物 10,148,504

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年3月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 28,839,000株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 2,169,358株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年9月25日 定時株主総会	普通株式	81,300	3	平成21年6月30日	平成21年9月28日	利益剰余金
平成22年2月12日 取締役会	普通株式	53,341	2	平成21年12月31日	平成22年3月15日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結会計累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年1月1日 至平成21年3月31日）

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	6,574,847	1,755,135	961,493	401,030	9,692,507	—	9,692,507
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	25,529	4,181	△57	82,976	112,629	(112,629)	—
計	6,600,377	1,759,316	961,436	484,007	9,805,137	(112,629)	9,692,507
営業利益又は営業損失(△)	△386,147	△14,496	△56,223	52,516	△404,351	1,482	△402,869

当第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日 至平成22年3月31日）

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	13,879,358	1,472,398	1,109,291	417,746	16,878,795	—	16,878,795
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,667	4,312	347	65,069	102,396	(102,396)	—
計	13,912,026	1,476,711	1,109,638	482,815	16,981,191	(102,396)	16,878,795
営業利益	340,935	5,251	41,882	40,127	428,196	255	428,452

前第3四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成21年3月31日）

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	19,627,099	5,467,453	3,131,798	1,151,277	29,377,629	—	29,377,629
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	78,486	15,083	4,858	196,374	294,802	(294,802)	—
計	19,705,586	5,482,536	3,136,657	1,347,651	29,672,432	(294,802)	29,377,629
営業利益又は営業損失(△)	△988,847	△25,470	12,739	97,231	△904,345	4,274	△900,070

当第3四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成22年3月31日）

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	26,734,807	4,495,786	3,341,685	1,217,997	35,790,276	—	35,790,276
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	101,311	15,314	5,461	194,340	316,427	(316,427)	—
計	26,836,119	4,511,100	3,347,147	1,412,337	36,106,704	(316,427)	35,790,276
営業利益又は営業損失(△)	△1,074,146	40,175	152,669	125,958	△755,342	646	△754,696

(注) 事業区分の方法及び各区分の主な内容

事業区分は事業内容を考慮して次のように区分しております。

不動産関連事業……………マンション・戸建ての分譲、注文住宅の受注、不動産賃貸・売買仲介、駐車場経営

人材サービス関連事業…人材派遣及び有料職業紹介

施設運営事業……………ホテル・ゴルフ場等施設運営

その他事業……………旅行手配、旅行販売、広告代理、損害保険代理

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年1月1日 至平成21年3月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日 至平成22年3月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

前第3四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成21年3月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成22年3月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成21年1月1日 至平成21年3月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成22年1月1日 至平成22年3月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

前第3四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成21年3月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成22年3月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

（ストック・オプション等関係）

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末 (平成21年6月30日)
1株当たり純資産額 219.12円	1株当たり純資産額 251.15円

2. 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失金額

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額(△) △27.93円 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額(△) △28.10円 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)
四半期純損失(△)(千円)	△768,735	△755,388
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(△)(千円)	△768,735	△755,388
期中平均株式数(株)	27,525,478	26,885,259

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額(△) △10.27円 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益 4.69円 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失(△)金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△278,270	124,970
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△278,270	124,970
期中平均株式数(株)	27,100,135	26,670,017

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成22年2月12日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………53,341千円

(ロ) 1株当たりの金額……………2円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成22年3月15日

(注) 平成21年12月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年5月12日

穴吹興産株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 一 宏 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新居 伸 浩 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている穴吹興産株式会社の平成20年7月1日から平成21年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、穴吹興産株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年5月12日

穴吹興産株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹野俊成 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新居伸浩 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている穴吹興産株式会社の平成21年7月1日から平成22年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成22年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、穴吹興産株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	四国財務局長
【提出日】	平成22年5月14日
【会社名】	穴吹興産株式会社
【英訳名】	ANABUKI KOSAN INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 穴吹 忠嗣
【最高財務責任者の役職氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【本店の所在の場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長穴吹忠嗣及び当社最高財務責任者富岡徹也は、当社の第47期第3四半期（自平成22年1月1日至平成22年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。